

(別記)

令和3年度小国郷地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、全耕作面積に占める主食用米面積の割合が約50%で、転作作物に占めるほうれん草、きゅうりの面積が広く、広大な原野を活用した畜産経営との組み合わせによる複合経営もなされている。

しかしながら、主食用米の需要が減少する中で、他の作物の作付に転換を促進することで、水田面積の維持を図っていく必要がある。

また、農家の高齢化が進んでおり、農家戸数の減少が見られるとともに、耕地の大部分が山間部に散在することで、不作付地の拡大も進んでいる。こうした中、水稲作付面積の維持が課題となっている。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

○適地適作の推進

当地域では冷涼な気候を生かして高収益作物であるほうれん草、きゅうり、春菊の生産が盛んであり、今後も適地適作を基本に水田農業における高収益作物の導入を図る。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

畑地化の取組について重点支援期間であることの周知を行い、農業委員会と連携し今後も水稲作に活用される見込みがない水田について点検を行い、農業者との話し合いの場を設けて水田の畑地化を推進していく。

4 作物ごとの取組方針等

小国郷内約1,005ha（不作付地94ha含む）の水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、ほうれん草、きゅうり、春菊を転作作物の中心として位置づけ、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

(1) 主食用米

生産技術の向上に努めるとともに、省力化による生産性の向上を図りつつ、売れる米作りの徹底によって、米の主産地としての地位を確保しつつ、農家所得を確保していくために、需要に応じた米生産の推進を行っていく。

また、低農薬・無農薬栽培による消費者ニーズに対応したうまい米作りを推進し生産から供給までの安定した取引の推進を図る。

(2) 非主食用米

ア WCS用稲

主食用米の需要減が見込まれる中、WCS用稲を転作作物の中心的作物に位置付ける。今後、有畜農家からの要望に応じた作付けを指導し、品質の良い品物の安定供給を目指して推進を行っていく。

(3) 飼料作物

飼料作物については、地域内の畜産農家からの需要があるため、産地交付金を活用し二毛作の作付けを支援する。

(4) 高収益作物

産地交付金における園芸作物（野菜等）への支援を行いながら、今後作付面積の維持・拡大を図る。

また、特に振興を図っている「ほうれん草」、「きゅうり」、「春菊」を重点品目に位置付け支援することで作付け拡大を推進する。

併せて、地元旅館や飲食店と連携し、その他野菜（多品目）の作付による地産地消を推進するとともに、花きについても、農地の有効利用を図るため作付を支援する。

5 作物ごとの作付予定面積等

作物	前年度 作付面積 (ha)	当年度の 作付予定面積 (ha)	令和4年度の 作付目標面積 (ha)	令和5年度の 作付目標面積 (ha)
主食用米	491ha、1,939t	502ha、2,405t	502ha、2,405t	502ha、2,405t
WCS用稲	46.7ha	46.7ha	47.0ha	47.5ha
飼料作物	40.2ha	40.2ha	41.0ha	42.0ha
・子実用とうもろこし	0.7ha	0.7ha	0.8ha	0.9ha
高収益作物	49.9ha	49.9ha	50.2ha	50.7ha
・野菜	48.2ha	48.2ha	48.5ha	49.0ha
・花き・花木	1.7ha	1.7ha	1.7ha	1.7ha
・果樹				
・その他の高収益作物				
畑地化	0.0ha	1.0ha	1.0ha	1.0ha

※ 主食用米の当年度、令和4年度、令和5年度の目標値において使用した単収は 479kg/10a

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標		
				前年度（実績） R2 年度	目標値 R5 年度
1	ほうれん草 きゅうり 春菊	重点品目作物助成 （基幹）	作付面積	28.2ha	28.5ha
2	野菜 花き・花木	地域特産作物助成 （ほうれん草・きゅうり・ 春菊以外）（基幹）	作付面積	21.7ha	22.2ha
3	飼料作物	飼料作物二毛作助成 （二毛作）	取組面積	53.2ha	58.0ha
			水田利用率	109%	110%